

会 議 名	第1回港区立図書館指定管理者候補者選考委員会
開 催 日 時	令和5年2月1日（水） 午前11時から正午まで
開 催 場 所	区役所7階 教育委員会室
委 員	出席者 7名 松本委員、安形委員、下山委員、須賀委員、星川委員、竹村委員、篠崎委員
事 務 局	図書文化財課長 齊藤、図書文化財課庶務係長 野津、庶務係員 山川、安藤
傍 聴 者	なし
会 議 次 第	1 開会・挨拶 2 委員委嘱 3 委員紹介 4 委員長選出 5 議題 議題1 公募要項（案）について 議題2 第一次及び第二次審査基準（案）について 6 今後のスケジュール 7 閉会
配 付 資 料	資料1 港区立図書館指定管理者候補者選考委員会設置要綱 資料2 委員名簿 資料3-1 港区立図書館指定管理者公募要項（みなと図書館・麻布図書館・赤坂図書館）（案） 資料3-2 港区立図書館指定管理者公募要項（三田図書館・高輪図書館・高輪図書館分室・港南図書館・台場図書館）（案） 資料4-1 港区立図書館指定管理者公募要項（みなと図書館・麻布図書館・赤坂図書館）【様式集】（案） 資料4-2 港区立図書館指定管理者公募要項（三田図書館・高輪図書館・高輪図書館分室・港南図書館・台場図書館）【様式集】（案） 資料5-1 業務基準書（みなと図書館・麻布図書館・赤坂図書館） 資料5-2 業務基準書（三田図書館・高輪図書館・高輪図書館分室・港南図書館・台場図書館） 資料6-1 業務仕様書（みなと図書館・麻布図書館・赤坂図書館） 資料6-2 業務仕様書（三田図書館・高輪図書館・高輪図書館分室・港南図書館・台場図書館） 資料7-1 港区立図書館指定管理候補者選考委員会 第一次審査選考基準・採点表（みなと図書館・麻布図書館・赤坂図書館）（案） 資料7-2 港区立図書館指定管理候補者選考委員会 第一次審査選考基準・採点表（三田図書館・高輪図書館・高輪図書館分室・港南図書館・台場図書館）（案）

資料 8-1	港区立図書館指定管理者候補者選考委員会 第二次審査選考基準・採点表（みなと図書館・麻布図書館・赤坂図書館）（案）
資料 8-2	港区立図書館指定管理者候補者選考委員会 第二次審査選考基準・採点表（三田図書館・高輪図書館・高輪図書館分室・港南図書館・台場図書館）（案）
資料 9	今後のスケジュール
参考資料	港区立図書館利用案内
参考資料	港区立図書館サービス推進計画【令和 3（2021）年度～令和 8（2026）年度】

会議の結果及び主要な発言

	<p>1 開会・挨拶</p> <p>2 委員委嘱</p> <p>3 委員紹介</p> <p>4 委員長選出</p> <p>5 議題</p> <p>議題 1・2 公募要項（案）及び第一次及び第二次審査基準（案）について</p>
事務局	事務局から公募要項（案）及び第一次及び第二次審査基準について説明。
B委員	今回グループを二つに分けることとなりましたが、選考の結果として、同じ事業者になることはあり得ますか。
事務局	競争性及び効率性を担保するという観点から今回 2 グループとしています。選考の結果、同じ事業者となることは結果としてあり得ます。
B委員	例えば読書バリアフリー法への対応等、区の図書館として一体的な対応をする必要があると思いますが、事業者が異なった場合には、どちらの事業者が調整を図る想定でしょうか。
事務局	中央館的機能を持つ三田図書館の指定管理者がイニシアチブをとりつつ、調整を図る想定です。現指定期間においてもみなと図書館とそれ以外の図書館グループの 2 事業者により図書館を運営していますが、区立図書館として一体のサービスを提供するものに関してはうまく役割分担をして運営しています。
B委員	一次審査は 1,400 点満点、二次審査は 700 点満点と一次審査の点数が倍の点数になっていますが、一次審査で 700 点以上差がついた場合に二次審査は行わないのでしょうか。
事務局	一次審査で 700 点以上の差が付くことは想定していません。
B委員	公募要項に過去 3 年度分の指定管理料の実績が掲載されています。中央館的機能がみなと図書館から三田図書館に移行していますが、その影響により予算規模に増減があるのであれば、補足的な説明を記載してもよいのではないのでしょうか。また、二次審査の際には、館長候補者は出席する予定でしょうか。
事務局	事業者向け説明会の際に積算しやすい詳細な資料を提示する予定です。また、館長候補者には出席してもらう想定でおります。
B委員	新規の事業者が入り込む余地がある配点が望ましいという観点から見た際に、指定管理を引き受けた実績に関連する配点割合が高いと新規事業者の参入を損ねると思

事務局	<p>ますが今回どのような配点となっていますか。</p> <p>指定管理を引き受けた実績に直接関連する評価項目はありませんが、資料7 第一次審査選考基準・採点表の項番の3のとおり、施設長予定者の実績を評価してもらう形で配点は10点としています。</p>
B委員	<p>配点としては問題ないと思います。</p>
D委員	<p>三田図書館の中央館的機能として会議の開催や取りまとめ等が書いてありますが、都や全国の図書館会議に出席するのは三田図書館の指定管理者か教育委員会のどちらになるのでしょうか。また、図書館全体として実施するものについて三田図書館の指定管理者が責任を持って意思決定できるのでしょうか。</p>
事務局	<p>図書館会議等については図書文化財課で出席する予定です。また、ホームページや画一的な実施が必要なものなど区立図書館全体として整理していくものは三田図書館の指定管理者だけでなく当然に図書文化財課も確認をした上で進めていきます。</p>
D委員	<p>現場の意見は大切なので、区と三田図書館の指定管理者で日常的にやりとりをする場が必要だと思います。公募に当たっては、図書館を実際に運営するだけではなく、区と調整することもあるのでその点補足した方が良いのではないのでしょうか。</p>
B委員	<p>資料3-2の公募要項5ページ(5)三田図書館の役割のところで中央館的機能について各区立図書館の取りまとめとなっていますが、取りまとめを行った上で、図書文化財課ないしは区の方の図書館関係部署との協議を行うといった表現とした方がよいのではないのでしょうか。</p>
A委員	<p>ガバナンス的な観点で、二つのグループのうち、中央館的機能を担う三田図書館を管理する事業者が、区とのやりとりの中心となる想定でしょうか。</p>
B委員	<p>中央館が無いグループの意見も尊重する必要があると思います。各事業者の意見が分かれた際にどのように調整を図るのかイメージして、今のうちから検討しておいた方が良いでしょう。</p>
事務局	<p>現在も毎月の館長会で図書文化財課が出席したうえで意見交換を行っていて、引き続き行っていく予定です。また、今回は令和4年度に区内全館に指定管理者制度を導入して中央館的機能が指定管理者に移ってから初めての公募になるので、ご指摘いただいた点は、公募要項への記載を検討いたします。</p>
C委員	<p>今回グループ分けをする上で、このような組み合わせとなった理由をお聞かせください。</p>
事務局	<p>事業者へのヒアリングの結果、応募しやすい状況として、地理的な近さや建物管理の効率性などが挙げられたことからそれを軸に検討しました。建物単体で管理しているみなと図書館と麻布図書館については効率性の観点から同じグループとしました。また、みなと図書館と三田図書館が同グループになるとそれぞれのグループ規模に大きな差が生じてしまうため別グループとしました。これらの理由を踏まえ、今回の組み合わせとなっています。</p>
C委員	<p>中央館的機能を持つ三田図書館がグループ2に含まれている理由はなぜでしょうか。</p>
事務局	<p>港区は5地区を行政順に並べていて、その順を基にグループ分けしています。三田図書館とみなと図書館は芝地区にありますが、三田図書館については高輪地区と港南地区の図書館と同様のグループとなっていますのでグループ2としています。</p>
C委員	<p>中央館に特別な役割があることを認識してもらうためにもグループ番号については検討の余地があるのではないのでしょうか。</p>

事務局	検討いたします。
D委員	資料3-2の公募要項5ページII、指定管理者が行う業務の(7)で、シティハイツ港南の大規模改修により10ヶ月影響があるということだが、これにより事業者がどの程度影響を受けるのか、完全閉館なのか部分閉館なのか、人件費などの点から大きな問題と考えますがいかがですか。
事務局	臨時休館と居ながら工事の2パターンを想定しています。その合計が10か月間となる見込みですが、臨時休館の際にも図書館の入口部分に臨時窓口を設置して予約資料の貸し出し返却業務等はしていただく予定です。
D委員	臨時休館の期間も、雇用の継続ができるようなことを考えているということですか。
事務局	その通りです。昨年度、高輪図書館でも大規模改修を行いそこでの実績もあります。
A委員	資料3-1の4ページ目(4)のエで司書資格が50%以上となっているが指定管理にすることから、もう少し高い水準を求めてもいいのではないのでしょうか。また、選書基準収集方針や選定基準、廃棄基準を区として設けていますか。
事務局	設けています。
F委員	意見も含め3点確認します。1点目は、グループ1と2の関係について、中央館を位置づけるのであれば、1に中央館があった方が良くはないかと考えます。2点目は、みなと図書館の古さについて、公募要項や資料から事業者に対し伝わるものなのか。3点目、二つのグループに応募する事業者がいた場合、その事実が採点に影響を与えることはありますか。
事務局	みなと図書館については、公募要項の施設の概要において、現施設の開設年月日が昭和54年開設ということが確認できます。また、施設見学会も設けているので、そこでも確認可能です。二つのグループに応募した事業者への加点や別事業者の加点については考えていません。
F委員	資料3-1の4ページ目(4)職員体制では、施設の維持管理に必要な要員を配置することのみ書かれていますが、施設メンテナンスに当たり専門的な資格の記載が無くていいのですか。
事務局	管理業務の一覧に必要な資格を記載しています。
G委員	学校との連携については、具体的な提案がされるように補足をしてください。
事務局	検討します。なお、司書資格の50%以上については前回の公募の際は定めておらず、今回公募から設定しました。50%という数字は、他自治体の状況や現在の指定管理者における司書資格割合など鑑み、事業者の負担にならない範囲で決めました。
A委員	司書資格の求める割合はもう少し高くしてよいと思います。
D委員	司書資格はもう少し高くてもいいのではないのでしょうか。特に首都圏は資格を持っている人がたくさんおり、指定期間の途中で5割を下回る可能性もあることを考えると、もう少し高い割合を求め、最低限でも50%以上いるという状態を作るべきではないのでしょうか。
B委員	逆の観点から、司書資格の有無に関しては事業者の参入障壁にもなりうることから、高すぎず、低すぎず、50%が担保される60%くらいがいいのではないのでしょうか。
委員長	記載については一任しますが、こちらの意図が伝わるよう表現を検討してください。それでは以上の議論を以て公募要項、第一次・第二次審査表を決定してよろしいですか。
	(全員了承)
	本日の意見を踏まえて事務局には2月20日の公募開始に向けて必要な修正を行い、

事務局	<p>最終的な調整については、委員長・副委員長に一任とします。</p> <p>一次審査・二次審査の最低基準を設ける必要がありますが、最低の基準となる得点率は何%にしたらよろしいでしょうか。また応募事業者が1者のみであった場合には再公募せずに、審査を行っていただくということによろしいでしょうか。</p>
E委員	<p>それぞれ満点の60%ではどうでしょうか。また、応募事業者が1者の場合でも再公募せず審査を行うことによろしいと考えます。</p>
委員長	<p>いかがですか。</p> <p>(全員了承)</p>
委員長	<p>それでは、一次審査・二次審査の最低基準は60%を基準とし、応募事業者が1者のみであった場合も、再公募はせずに、審査を実施することとします。</p>
<p>6 事務局より今後のスケジュールについて説明</p>	
<p>7 閉会</p>	

※委員長における質疑や講評等に関する発言について、「委員」として表記しています。

会 議 名	第2回港区立図書館指定管理者候補者選考委員会
開 催 日 時	令和5年6月14日（水） 午前10時から正午まで
開 催 場 所	区役所7階 教育委員会室
委 員	出席者 6名 松本委員、安形委員、須賀委員、長谷川委員、竹村委員、篠崎委員 欠席者 1名 下山委員
事 務 局	図書館文化財課長 齊藤、図書館文化財課図書館係長 野津、図書館係員 安藤、田村、佐々木
そ の 他	井上 大輔 公認会計士
会 議 次 第	1 開会 2 第1回選考委員会議事録概要について 3 財務状況等分析結果について 4 議題 議題1 第一次審査通過事業者の決定について 議題2 第二次審査の方法について 5 今後のスケジュール 6 閉会
配 付 資 料	資料1 第1回港区立図書館指定管理者候補者選考委員会会議録（案） 資料2 財務状況調査・分析報告書 資料3 資金計画調査・分析報告書 資料4 第一次審査（書類審査）採点集計表（グループ1） 資料5 第一次審査（書類審査）採点集計表（グループ2） 資料6 第二次審査（プレゼンテーション・ヒアリング）採点表 資料7 第二次審査（プレゼンテーション・ヒアリング）の方法について 参考資料1 港区立図書館指定管理者候補者選考委員会設置要綱 参考資料2 委員名簿
会議の結果及び主要な発言	
委員長 事務局	1 開会 席上配布資料の説明
事務局 委員長	2 第1回選考委員会議事録概要について （資料1に基づき説明） 第1回選考委員会議事録概要については本案で確定とする。

公認会計士	<p>3 財務状況等分析結果について (資料2「財務状況調査・分析報告書」に基づき説明)</p>																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>事業者名</th> <th>事業者名</th> <th>総合評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>グループ1 (三田図書館・高輪図書館・高輪図書館分室・港南図書館・台場図書館)</td> <td>A-1 事業者</td> <td>A-2 事業者</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">グループ2 (みなと図書館・麻布図書館・赤坂図書館)</td> <td>A-1 事業者</td> <td>A-2 事業者</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>B-1 事業者</td> <td>B-2 事業者</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>C 事業者</td> <td></td> <td>可</td> </tr> </tbody> </table>		事業者名	事業者名	総合評価	グループ1 (三田図書館・高輪図書館・高輪図書館分室・港南図書館・台場図書館)	A-1 事業者	A-2 事業者	可	グループ2 (みなと図書館・麻布図書館・赤坂図書館)	A-1 事業者	A-2 事業者	可	B-1 事業者	B-2 事業者	可	C 事業者		可
	事業者名	事業者名	総合評価																
グループ1 (三田図書館・高輪図書館・高輪図書館分室・港南図書館・台場図書館)	A-1 事業者	A-2 事業者	可																
グループ2 (みなと図書館・麻布図書館・赤坂図書館)	A-1 事業者	A-2 事業者	可																
	B-1 事業者	B-2 事業者	可																
	C 事業者		可																
A委員	<p>調査結果一覧表として様々な観点から採点され、合計の得点で大体の傾向はわかりますが、特に注意すべき指標があれば、ご説明願います。</p>																		
公認会計士	<p>財務分析のため、どの指標を重視しどの指標は軽視していいというものではありませんが、指定管理期間中に会社として維持できる体力があるという観点から比較的重視しているポイントとしては流動比率が挙げられます。ここだけを見た場合、全ての事業者について問題はありません。</p>																		
D委員	<p>リスク要因の指標が、A事業者とC事業者が3、B事業者が4とされ、指標の説明を見るとリスクの高い投資やキャッシュフローと記載されています。公の施設の管理運営を引き受けるような企業はあまりリスクの高い運営をしてないイメージがありますが、「中」とはどういうことでしょうか。</p>																		
公認会計士	<p>定性的な部分のため判断が難しいですが、有価証券報告書や参考資料を確認し、基本的に「中」を基準にして、よければ少し上げた点数を付けています。問題がないと考えていただいでよろしいです。</p>																		
公認会計士	<p>(公認会計士が、資料3「資金計画調査・分析報告書」に基づき説明する。)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>事業者名</th> <th>総合評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>グループ1 (三田図書館・高輪図書館・高輪図書館分室・港南図書館・台場図書館)</td> <td>A事業者</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">グループ2 (みなと図書館・麻布図書館・赤坂図書館)</td> <td>A事業者</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>B事業者</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>C事業者</td> <td>B</td> </tr> </tbody> </table>		事業者名	総合評価	グループ1 (三田図書館・高輪図書館・高輪図書館分室・港南図書館・台場図書館)	A事業者	A	グループ2 (みなと図書館・麻布図書館・赤坂図書館)	A事業者	A	B事業者	B	C事業者	B					
	事業者名	総合評価																	
グループ1 (三田図書館・高輪図書館・高輪図書館分室・港南図書館・台場図書館)	A事業者	A																	
グループ2 (みなと図書館・麻布図書館・赤坂図書館)	A事業者	A																	
	B事業者	B																	
	C事業者	B																	
B委員 公認会計士	<p>注意すべき点はあるが、全体としては問題がないという理解でよろしいですか。全体として資金計画はしっかり作成されていると考えます。グループ2のB事業者とC事業者については、誤りがあり要注意と記載しているが、誤りの部分について注意していただければと、それほど心配は不要と考えています。</p>																		
D委員	<p>B事業者の人件費水準の妥当性というところで、表によって数値に齟齬があることについて、もう少し詳しく説明をお願いします。</p>																		
公認会計士	<p>B事業者のみなと図書館について、資金収支計画書における人件費総額と人件費見積根拠資料に記載されている人件費総額が一致していないため、注意が必要と記載し</p>																		

A委員	<p>ました。</p> <p>例えばB事業者が選ばれたとして、港区から事業者に対して支払う指定管理料の person 費について、実際にどのような支払いがなされたか確認はできるのですか。</p>
事務局	<p>月1回のモニタリングにおいて確認しており、チェック体制は確保しています。</p>
E委員	<p>資金計画分析でご意見いただいたB事業者とC事業者の person 費の件について、仮に第一次審査を通過した場合は、第二次審査までに説明を求め、合理的な内容に改めた上で最終的に審査をすべきだと思います。</p>
委員長	<p>提出資料に不整合がある部分については、事業者から説明を求めるとします。</p>
E委員	<p>グループ1の1事業者とグループ2の3事業者それぞれ資金収支計画の中で、全体経費におけるその他経費の割合が事業者によって異なりますが、これが妥当な範囲かどうかご意見を伺いたいです。</p>
公認会計士	<p>企業によって積算の考え方は違うものの、今回の応募者は全て妥当な範囲であると考えます。</p>
D委員	<p>本部経費の根拠は事業者ごとに異なりますが、算出方法は問題ないのでしょうか。</p>
公認会計士	<p>どこまでの積算根拠を出すかというのは事業者に委ねられており、提示の仕方も審査の一つの項目になると考えます。一般論として、その他経費の積算根拠はどの程度精緻かという観点で比較するのは意義が薄く、person 費や直接経費がどのような形で見込まれているかを重視した方が、資金計画の審査としては望ましいと考えます。</p>
	<p>4 議題について</p>
	<p>議題1 第一次審査通過事業者の決定について</p>
事務局	<p>(資料4・5に基づき説明)</p>
委員長	<p>全事業者についてまずはB委員に講評をいただきます。</p>
B委員	<p>グループ1に関して、A事業者は類似施設の管理運営実績のある事業者であり安定した運営が可能と考えます。グループ2に関して、A事業者は現状を踏まえた非常に無難な提案に感じます。B事業者は他施設での実績もあり、ICTに目配りしているという印象です。ただし、職員の裁量に委ねている部分が見受けられます。C事業者に関しては、新しい提案を投げかけてくれそうだなと感じましたが、他の2事業者に比べると類似施設での実績が若干少ないと思います。現状では事業者間で大きな差をつけておらず第二次審査において提案内容を確認したいです。</p>
委員長	<p>続いてグループ1のA事業者の採点結果について、評価したポイントを各委員から講評願います。</p>
A委員	<p>施設長予定者の勤務状況、勤務実績等において経験が浅い図書館長としているところは気になりますが、全体としてしっかりと計画となっており、運営管理体制において、職員の無期雇用化促進を掲げている点は特に評価しました。</p>
D委員	<p>現在の体制を次回指定期間以降にも活かしていくという印象を受けました。公共図書館は全体がネットワークで繋がっているところに意義がある中で、全体をまとめる中央館的機能についてどう考えているかという点について、より説明が欲しかったです。研修体制等が充実していて、本社のバックアップが非常に手厚いことは評価できます。バックアップの内容や費用の妥当性等について、プレゼンテーションにおいて確認したいです。</p>
G委員	<p>教育的な観点で、学校や地域との連携という点を重視しました。具体的な取組を進めていくことが熱く記載されている点は評価できます。アウトリーチ的な部分が強化</p>

F委員	<p>できると更に良いと思いました。</p> <p>管理運営体制において、司書率の割合や認定司書がいることなどを高く評価しました。また副館長の配置等についても、中央館的機能としての役割を踏まえ、三田図書館に手厚く配置している点や、障害者雇用についても的確に書いてある点も評価できます。</p>
E委員	<p>オール4の評価としました。運営体制として司書の割合が80%と高く、全館が館長経験者ということで安定した運営が期待できます。ただし、資金収支計画については、グループ2において当該事業者を含めて3者応募していますが、この中では本部経費の比率が一番高く、なおかつ人件費の比率が比較的低い点は気になりました。</p>
C委員	<p>指定管理者として類似施設での運営実績が多い点、司書の有資格率が多い点、研修が充実している点が評価できます。一方で、実績が多いこともあるのか提案される企画に新鮮味がない点は気になります。募集要項に記載した点のうち、特にウェブページに関する内容が盛り込まれていないように見える点に不安を感じました。</p>
委員長	<p>意見交換を踏まえ、採点を変更する委員はいますか。</p>
F委員	<p>管理運営体制については、他の委員の意見を踏まえ、評価を4に変更します。</p>
委員長	<p>他に変更がなければグループ1は以上とします。</p>
委員長	<p>引き続きグループ2の審査を行います。</p>
A委員	<p>A事業者については先ほどと同様です。B事業者に関しては、計画自体は良かったのですが記述や説明が足りておらず、専門用語の使い間違えもあり残念な印象があります。C事業者に関しては、個人情報危機管理安全等に関する取り組みの関係で、図書館業界における規範等について十分に理解しているのかは少し不安な点がありますが、A事業者と同様提案としては手堅く作られているという印象です。全体としては、A事業者、C事業者はかなりしっかりとした計画である印象です。</p>
D委員	<p>A事業者について、先ほどと同様で本社のバックアップ体制の内容について第二次審査でお話を聞きたいです。自主事業の提案については、本社の事業を踏まえた内容であり、港区ならでの提案がもう少し欲しいと思いました。非常に安定的な運営が可能と考えており、例えば広報、情報発信も思いつきではなく計画を立てている実施する点は評価でき、港区ならでの提案があるとより良いと感じました。B事業者については、かなり厳しい評価をしました。一番大きな問題点は、研修体制が非常に不十分だということであり、図書館の専門職としての研修項目が少ないことが気になります。地域の拠点としての計画についても、具体的に考えていると思えないところがあります。また、指定管理業務の開始までの研修が不十分ではないか、職員体制についても具体的な記述がないためしっかりと指定管理業務をこなせるのかという点に不安を感じました。C事業者については、やはり館長経験者の業務経験が不安に感じました。また、再委託を予定している業務について多くの委託先が未定であるのでどの程度のことのできるのかが気になります。</p>
G委員	<p>A事業者は、現在港区立図書館で実施している事業の延長線上のような事業提案が多かったように感じました。事業内容については具体的で実現可能なところは評価できます。B事業者は、研修の体系はわかりやすいと思いましたが、研修内容については確認が必要です。図書館の地域性を生かした取組は、図書館ごとに特色を出しています。実際その特色がどう活かされていくのか、どう集約していくのかを第二次審査でお聞きしたいです。C事業者は、自社だけではなく他機関との連携は大事な要素で</p>

F 委員	<p>あり、連携を予定する施設を、コミュニティ施設、福祉施設、学校図書館、小・中学校とカテゴライズしているのがわかりやすい一方で、カテゴライズすることによって連携先が偏っている感じを受けます。他機関との連携や取組についても確認したいです。また、危機管理について図書館として防災に関する情報発信を行うことにより、区民等の防災意識の向上を図る取組が具体的に記載されているところが評価できます。</p> <p>A事業者については先ほどと同様です。付け加えると、環境に配慮した取り組みについて、SDGsと紐づけている点が良いと思いました。B事業者については、司書率60%と書かれていますが、経験者がどの程度いるのかがわかりづらく、現状の人員体制にも不安を感じるので確認したいです。また、危機管理で具体的な体制図がありませんでした。noteによる発信や情報発信の部分で、他の事業者とは違った提案がなされている点は評価できます。具体的な内容については確認したいです。クロマキー合成技術を使った本の中に入れてみようは新しい提案として面白いと思いました。人員体制について、区民を優先すると採用計画に記載がありますが、具体的な内容がありませんでした。障害者雇用については理解不足という印象を受けました。C事業者については、地域資料の電子化の取組は面白いと思いました。意外性のある地域の異業種とのコラボ事業「図書館×(かける)〇〇プロジェクト」は、図書館ごとに地域特性を生かしながらやろうという目新しい工夫ということが評価できます。地域の分析を行っており、地域の特徴に合わせた運用・管理を行うことが期待できると思いました。管理運営体制の部分で、常勤が館長のみで副館長以下は契約社員を配置するという考え方で安定した運営ができるのか不安に思い3点としました。再委託先が未定となってる中で、予定金額をどのように算定しているのか、実効性に欠けているというところで2点としています。障害者雇用については具体的な記載が足りないことと、サービスと混在しているところが不安に感じました。</p>
E 委員	<p>A事業者については先ほどのグループ1と同様です。B事業者は、3館のうち館長経験は1名しか配置しておらず体制的に不安を覚えます。また、全体的に提案に具体性が欠けているという印象を受けました。C事業者は、館長について、みなと図書館の館長候補者は公立図書館の総括責任者となっていますが、これがどういう立場の人か確認が必要です。管理運営の再委託は事業者が未定で、本当に再委託の業務が担保できるのかと不安です。それぞれの項目の中で、他自治体での具体的事例を多く挙げており、港区版にアレンジし実施することで、新たなサービスが期待できるのではと感じました。</p>
C 委員	<p>A事業者については先ほどと同様です。B事業者については、従業員を1年経過後に無期雇用へ転換し、安心して働ける環境を整備しようという姿勢が見えます。また、地域における拠点としての役割での提案が多岐に渡っていること、オンライン講座の実施やnoteでの広報など、現在の港区において効果的と考えられる提案が含まれている点が評価できます。C事業者については、正社員の比率が低い点は残念です。一方で、地域の分析を行い地域の特徴に合わせた運用・管理を行おうとしている姿勢が評価できます。また、様々なチャネルを使った発信や「図書館×〇〇」のように、新規顧客の増加をねらう施策にも期待が持てます。</p>
A 委員	<p>B事業者の司書の確保等、新たな職員の採用や他のところから異動させて対応するという点について心配があります。</p>
D 委員	<p>同感です。B事業者が中堅職員を全く確保していないことから、現場もほとんど経験</p>

	<p>がない人ばかりになる可能性が非常に高いと考えます。施設長予定者の勤務実績から見ても、現場職員がもっと経験が低くなるということは自明で、そうした場合、運営能力という点で問題があると思います。</p>
E委員	<p>図書館業界に限らず人手不足だと思います。図書館として運営していくためには、一定程度の割合は司書資格を持つ職員が不可欠ですが、有資格者の採用はやはり厳しい状況なのではないでしょうか。</p>
D委員	<p>厳しいと思います。司書資格を持つ人が、例えば、雇用状況が悪い中では多少給与が低くても働いていましたが、他に給与が高い民間事業者の雇用が増えれば少しでも時給が高いところに移るのは自明です。給与以外の点でも、キャリアアップや仕事のやりがいなどが提供できる事業者でないと職員は固定化しないと思います。</p>
A委員	<p>今回のB事業者の提案書を見ると、今までは契約社員としての雇用が多かったが、正規職員という形で無期雇用に変える傾向が見られます。そういう意味では正規職員に切り替えることで職員の確保を進めていこうとしているのか推察します。</p>
F委員	<p>そういう事情の中では、館長経験者を含めて職員の年齢層も高くなっているのでしょうか。</p>
A委員	<p>契約社員は、管理者への昇進志向があまりなく、その点で管理職が育たないのかも知れません。それ故に、管理職経験のある人を外部から採用して配置していると理解しています。</p>
委員長	<p>意見交換を踏まえ、採点を変更する委員はいらっしゃいますか。</p>
F委員	<p>意見を踏まえ、A事業者の管理運営体制のところを4点に、B事業者の管理運営体制と施設長予定者の勤務実績のところをそれぞれ3点に、C事業者の再委託に関する事項を2点に変更します。</p>
委員長	<p>他に変更がなければグループ2は以上とします。</p>
委員長	<p>グループ1及びグループ2の第一次審査の結果について、説明願います。</p>
事務局	<p>(事務局から再集計結果の説明)</p>
委員長	<p>第一次審査の採点表について、説明のとおり確定とするのがいかがですか。</p>
委員長	<p>(全員了承)</p>
委員長	<p>全ての事業者について、第一次審査合計点の6割以上の得点であることから、全ての事業者について第二次審査の対象とします。</p> <p>(全員了承)</p>
事務局	<p>議題2 第二次審査の方法について</p>
事務局	<p>(事務局が、資料4・5に基づき説明する。)</p>
委員長	<p>第二次審査の際に事業者に通問事項や確認事項を整理します。</p>
E委員	<p>館長予定者は重要な点であるため、全ての事業者を確認すべきと考えます。</p>
D委員	<p>館長予定者のどのような点を評価し選定したのか確認したいです。A事業者の場合は過去の実績がありますが、B事業者とC事業者の場合はあまり経験がないように見受けられるので確認が必要です。それを確認することで、どういう点を重視して人材を選定してるのかが分かると思います。また、職員体制について、館長を支える副館長やリーダーなど名称が違うので、それぞれがどういう役割なのか、経験がある者がつく役職として考えているのか、どのようにベテランや経験のある人を配置するの</p>

	か、確認したいです。
委員長 事務局	館長と副館長については、公募要項等で規定していますか。 副館長については「館長等を補佐し、館長等不在時に館長を代理する者として副館長を配置すること。なお、副館長の要件は次のとおりとする。司書資格を有する者又は図書館業務経験者（3年以上）であること」と定めています。
E委員	プレゼンテーションや質疑の中で確認すると時間を要するため、補足資料として事前に提出してもらうのはいかがでしょうか。
委員長	副館長予定者に対して、どのような方を予定しているかなど、館長と同じ様式を準用する形で提出してもらうこととしますか。
D委員	例えば、図書館経験何年以上、他施設での副館長の経験有無といった点の確認でも構いません。
委員長	事前に補足資料として出していただくということによろしいですか。 (全員了承)
F委員	かなりタイトなスケジュールでもあり、ヒアリングの時間を十分確保するならば、提案内容をA3サイズ1枚でまとめた資料とするなど、プロジェクターではなく紙資料のみとする方法もあると思います。
E委員	ヒアリング時間は10分では短いので、もう少し確保した方が良いと思います。
D委員	採点時間5分とありますが、最終審査の15分でグループ1と2の各事業者を採点するということでしょうか。
事務局	最終審査の時間において、グループ1とグループ2についてそれぞれ審査いただくことを想定しており、採点5分というのは、委員自身の採点時間と考えています。
委員長	ヒアリング時間は15分を予定することとします。プレゼンテーション資料は提案内容をA3サイズ1枚にまとめていただくとともに、先ほどの副館長の実績や資金収支計画の不明な部分を補足資料として別に提出してもらうこととします。
F委員	審査を簡潔かつ共通性を持たせるためには、プレゼンテーションでは人の採用や配置のことを必ず説明するよう事前に指示してはどうでしょうか。
D委員	職員の研修についても加えて欲しいです。
委員長	共通して確認する事項については、予め資料に記載してもらい、必ず説明もしてもらおうということによろしいですか。 (全員了承)
E委員	出席者について、複数の施設があるので、館長予定者を1人と絞る必要はないと思います。各館の館長予定者に来ていただくのはどうでしょうか。
A委員	各館の館長予定者の顔ぶれがわかり良いと思います。
D委員	現在の業務もあるため、少なくとも1名は必ず出席してもらい、その後は可能な限り参加とした方が良いのではないのでしょうか。
事務局	グループ1は三田図書館、高輪図書館、高輪分室図書館、港南図書館、台場図書館で、港南図書館と台場図書館の館長は兼務となっているため、館長予定者は4人となります。
F委員	中央図書館としての機能を有する三田図書館、新規に図書館となった台場図書館の館長予定者は出席を必須としてはいかがでしょうか。
委員長	出席者は全員で5名以内とし、本部職員2人、三田図書館と台場図書館の館長予定

事務局	者は出席を必須とすることによろしいでしょうか。 (全員了承)
事務局	(今後のスケジュールについて事務局から説明)
	5 閉会

※委員長における質疑や講評等に関する発言について、「委員」として表記しています。

会 議 名	第3回港区立図書館指定管理者候補者選考委員会
開 催 日 時	令和5年7月6日(木) 午後5時から午後8時45分まで
開 催 場 所	区役所9階 研修室
委 員	出席者 7名 松本委員、安形委員、須賀委員、下山委員、長谷川委員、竹村委員、篠崎委員
事 務 局	図書文化財課長 齊藤、図書文化財課図書館係長 野津、図書館係員 安藤、田村、佐々木
会 議 次 第	1 開会 2 第二次審査実施概要について 3 事業候補者によるプレゼンテーション及び質疑応答 グループ2(みなと図書館・麻布図書館・赤坂図書館) (1) B事業者(プレゼンテーション10分、質疑応答20分) (2) C事業者(プレゼンテーション10分、質疑応答20分) (3) A事業者(プレゼンテーション10分、質疑応答20分) グループ1(三田図書館・高輪図書館・高輪図書館分室・港南図書館・台場図書館) (4) A事業者(プレゼンテーション10分、質疑応答20分) 4 第2次審査採点及び事業候補者の選定について 5 その他 6 閉会
配 付 資 料	【配布資料】 資料1 第二次審査実施概要 資料2-1 第二次審査採点基準表(グループ2 B事業者) 資料2-2 第二次審査採点基準表(グループ2 C事業者) 資料2-3 第二次審査採点基準表(グループ2 A事業者) 資料2-4 第二次審査採点基準表(グループ1 A事業者) 資料3-1 第一次審査・第二次審査集計結果(グループ1) 資料3-2 第一次審査・第二次審査集計結果(グループ2) 資料4 第2回選考委員会議事録概要 参考資料 第一次審査集計結果
会議の結果及び主要な発言	
委員長 事務局	1 開会 席上配布資料の説明
事務局	2 第二次審査実施概要について (事務局が、資料1に基づき説明する。)

	<p>3 事業候補者によるプレゼンテーション及び質疑応答 (各事業者10分間のプレゼンテーションを実施後、20分間の質疑応答) グループ2 (みなと図書館・麻布図書館・赤坂図書館) (1) B事業者</p>
委員長	準備ができましたら、プレゼンテーションをお願いします。
委員長	(B事業者がプレゼンテーションを実施) ありがとうございます。それでは質疑応答に入ります。
D委員	研修について、外部機関研修と記載がされていますが、具体的にどういった機関での研修を考えていますか。例を挙げてご説明願います。
B事業者	例えば、著作権の研修については、国で開催されているものがあります。また、日本図書館協会で開催している館長養成講座や、専門的な資料収集の講座に関しては社内プログラムと並行して、対象者を選抜しながら参加していく予定です。館により対象者や時期の違いはありますが、より専門的なものに関しては、社内講師以外が実施することで技術を高め、施設内、職員同士で還元し共有していく仕組としていきます。
C委員	読書学習環境の充実のところで、パソコン使用エリアの増設や吸音パーテーションの設置について説明がありましたが、具体的にお聞かせください。
B事業者	赤坂図書館の窓際の閲覧席の部分や、麻布図書館の窓際の閲覧席を想定しています。現在、申し込み制でのパソコン利用サービスを展開していると思いますが、申し込み制というのはカウンターに声掛けする必要があることから、可能であれば、もう少し自由に使えるようにできないかと考えています。ただ、パソコン利用については、音がどうしても出てしまうので、様々な図書館で使用をやめて欲しいという声をいただくこともあります。そのため、今回PC・タブレット等のエリア増設の提案とあわせて、今までと同じように静かに利用したいという方にも配慮するために吸音パーテーションの設置をご提案させていただきました。
B委員	現在、港区の図書館では電子書籍サービスが提供されており、国立国会図書館のデジタルコレクションもここ数年で非常に拡充しています。そういった中で、実際の図書館サービスと、これらの電子書籍サービスに関して、電子書籍の活用の提案やアイデア等があれば、教えてください。
B事業者	2点目として、昨年より生成AIがかなり学校教育、社会教育の現場で話題になっていますが、これらの生成AIの図書館サービスへの応用、或いは可能性についてお考えがあれば教えてください。
B事業者	まず、電子図書館については、電子図書館の活用講座や、どういう事ができるかを利用者に周知していきます。また、電子図書館はこういう資料があるというような展示をするなど、デジタルに馴染みのない方にも、知ってもらうような方策を考え、取り組んでいきたいと考えています。
B事業者	2点目、生成AIの応用・可能性については、国の指針を踏まえ、どのように公共図書館に落とし込んでいくか検討が必要と考えています。生成AIの体験型講座や今後の社会にどのように活用されるのかといった座学講座などを検討しています。この分野に関しては、更に踏み込んだデジタルシティズンシップという考え方まで行けるよう管理運営の中で推進していきたいと考えています。
G委員	読書と学習環境の充実や地域コミュニティの連携について、ソフト面の部分で御社にしかできない取組があれば教えてください。
B事業者	地域コミュニティの連携については、従来通りの連携スタイルを展開していくと

もに、更に対話をする場を設けていくところが、今回重視した点です。専門図書館と連携して、専門図書館の強みを持った学芸員や司書を招いて講座を開催する、資料を借りて展示する等は、みなと図書館でも既に行っていますが、もう少し踏み込みたいと思っています。例えば、専門図書館のおすすめの本をさらに引き出し、日常的にやりとりを深めて、ブックリストを一緒に作って展開する。展示でも、ただ借りるだけではなく、土曜日や日曜日に学芸員に来てもらい展示を説明してもらう機会を設ける、図書館員自体も、先方に行って本の説明をする、ブックトークをする、そういった行き来するやりとりを深めていきたいと考えています。

図書館は、情報を得る場所、読書を享受する場所と受けとめている方が大変多いと思いますが、そういったサービスだけではなく、これからは利用者が主体となって情報を発信する場、地域の方々に発言をする場の提供もできるのではないかと考えています。なぜならば、図書館には様々な情報が集まっており、それを利用して、地域の方々が必要な情報をさらに付け加えることで、地域のニーズに合った情報発信が図書館において可能です。具体的に言うと、例えば、いきいきプラザの利用している方々が持っている知恵や情報を一旦預かり、共にまとめ、その情報を形にして地域に発信していくといった場を作るのが、これからの図書館では可能になると考えています。

情報発信については、広報やポスターの制作に関しては、弊社として培ってきたノウハウがあり、専門のイラストレーターによって伝わりやすく魅力を感じていただける広報ポスターを制作することができています。どこに貼るかも重要で、駅や図書館だけではなく、もっと出向いた場所に掲示していくことによって、図書館に来ていない方にも多く見てもらい、伝えていきたいと思っています。他にも新しいSNSのメディアの「note」を活用していくことも提案しております。また、口コミという形での情報発信は、何よりも確かな図書館のユーザーを獲得することに繋がると考えています。子育て向け、年配の方々に様々な事業を展開して、来ていただいた方々と交流を深めていくことによって、またその方々が必要な情報を提供できるような本の紹介展示やイベントを行っていきたいです。

読書と学習環境の充実におけるソフト面での取組については、学校や様々なところにも学習機会の提供に図書館がリンクしていきたいと思っています。

A委員

赤坂図書館の館長予定者の方にお聞きしますが、抱負のところで「地域におけるアウトリーチを強化し」と書いていますが、こういったことをイメージしていますか。

また、事業計画の職員の確保に対する考え方で、長期安定のための無期雇用転換をしているということですが、どのように職員の働き方が変わっていくのか、或いはどのように考えているのか教えてください。

B事業者

1点目について、港区ミュージアムネットワークと連携して、赤坂の図書館の重点所蔵がデザインとか広告となっているので、そのように図書資料を活用いただくことや、岡本太郎記念館や根津美術館等の利用促進も図書館として一緒に出来ればと思っています。また、地域のコミュニティに関しては、国際交流センターなどのイベントに参加して図書館をアピールする、地域団体の活動を図書館で展示する等を考えています。企業に関しては企業の活動会議体が幾つかありますので、情報共有と合わせて積極的に参加して交流を深め、繋げるものは繋ぎたいと思っています。

2点目について、期間の定めのある雇用では、毎年毎年の面談を重ねて、継続して同じ図書館で働きたいと思っても、それが叶うのかわからないことを常に不安に感じるのは、このような雇用形態の場合でよく聞かれる声です。無期雇用にすること

	<p>によって、まずその点に関して安心してもらい、業務に取り組んでもらうことができます。弊社としても積極的かつ意欲的に業務に従事していただくことができるので、業務の成果・パフォーマンスが高まるという点で大きな違いがあります。また、長年勤務することによって、職員がステップアップしていくこと、面談を通じて個人個人の状況に応じたキャリアプランを管理担当者がマネジメントすることができるので、人材育成とサービス向上の点で効果があると考えています。</p>
E委員	<p>各館の館長予定者について、それぞれどのような点に強みがあるのか、どういう考えで館長予定者と選んだのかお聞かせください。</p>
B事業者	<p>みなと図書館館長予定者については、既にみなと図書館で勤務を重ねているほか、弊社の各図書館でも経験を重ねています。みなと図書館の地域性を発揮していくということと、専門性を兼ね備えているということが一致しています。麻布図書館の館長予定者については、各図書館の経験を兼ね備えているということと、複数の図書館を年度の開始と同時にスタートする立ち上げの経験も多く有しています。従って3人が非常に良いチームワークを発揮し、それぞれが補い合っていくことも可能です。その中心にいる麻布図書館の館長予定者については、現在のみなと図書館で勤務していることが大きなキーファクターになっています。また、地域に働きかけていく、出前出張して図書館サービスを提供するといった数々の経験を持っているので、麻布図書館における、地域情報のリサーチと図書館サービスを結びつけていくことを具体化していく点から選定しています。最後に赤坂図書館館長予定者については、これまでの説明にもあった通り、民間でのキャリアということが強みです。また、IT分野にも明るいことを生かした、赤坂図書館での様々な課題解決やサービス拡大に適任であるということで選定しました。共通事項として、それぞれの地域をリサーチしながら商店街の方と会うなどしており、今後の取組意欲を示していることから、それぞれ適任と考え選定しました。</p>
委員長	<p>それでは時間になりましたので、これでプレゼンテーション及び質疑応答は終了します。どうもありがとうございました。</p>
委員長	<p>(2) C事業者 準備ができましたら、プレゼンテーションをお願いします。</p>
委員長	<p>(C事業者がプレゼンテーションを実施) ありがとうございます。それでは質疑応答に入ります。</p>
B委員	<p>現在、港区の図書館では電子書籍サービスが提供されており、国立国会図書館のデジタルコレクションもここ数年で非常に拡充しています。そういった中で、実際の図書館サービスと、これらの電子書籍サービスに関して、電子書籍の活用の提案やアイデア等があれば、教えてください。</p> <p>2点目として、昨年の末より生成AIがかなり学校教育、社会教育の現場で話題になっていますが、これらの生成AIの図書館サービスへの応用、或いは可能性についてお考えがあれば教えてください。</p>
C事業者	<p>電子書籍や国会図書館のサービスは様々な図書館で活用が進んでおり、弊社としても実感しています。図書館で取り扱っていることを知らない方は、時間がたっても知らないままであることをすごく実感しているので、まず周知が最初にできることと感じています。例えばOPACの使い方講座とか、一人一人に対して丁寧な案内をするときに、電子図書館も案内するという地道な活動ですが、そういう取組も考えていま</p>

	<p>す。今後は自宅に居ながら図書館を使っていくというライフスタイルに変動していくと考えるので、図書館から家にいる方に対するサービスもそうですが、家でそのサービスを体感した方がまた実際に図書館に足を運んでもらえるような、連動性が求められると思っています。</p> <p>2点目の生成AIの活用とリスクについて、レファレンスをはじめとして将来的には大きく活用できる分野かと思いますが、現時点においては、正確性やリスクに大きな課題があると考えており、生成AI等について学ぶ講座や、将来的にレファレンスに使えるのかを図書館の視点から、利用者や周りの方を巻き込んだ議論に持っていくことが、現時点でできることと考えています。</p>
D委員	<p>外部研修の受講について、「職員の育成研修」に外部研修の受講と書かれていますが、具体的にどのような研修を受講することを予定していますか。</p>
C事業者	<p>外部研修には様々なものがありますが、自治体や都の研修に積極的に参加します。他に、色々な企業が出展した図書館の見本市のような図書館総合展では、必ず色々な視点からの図書館サービスに関するセミナーがあるので、業務の合間を縫って参加しています。近年、オンラインでの受講も盛んですので、パソコンで講座を受けることで講習の機会が増えており、効率よく学べる形ができています。大学の短期講習などに参加し、その内容を周りの職員にフィードバックする形で図書館自体のサービス向上につなげていけるよう、積極的に参加してもらっています。</p>
C委員	<p>契約社員という立場で、副館長以下の職員を雇用し配置するということですが、この契約社員という形態について、このような対応とした理由があれば教えてください。</p>
C事業者	<p>弊社においては、指定管理者制度による施設管理においては、常勤職員であっても契約社員という雇用形態が多くなっています。5年間経った際に無期雇用転換で正社員になってもらうことや、図書館の現場で経験を積んだ後に本部職員として会社の図書館ソリューションを担っていただくスパイラルを考えています。入社時には、契約社員からスタートする形が多くなっているのが実情です。今後、体制も整えば、例えば一定程度の層については正規職員とすることも考えられます。</p>
F委員	<p>色々な講座を提案されていますが、平日の昼間には申し込みができない人も多いる中で、何か工夫する点があれば教えてください。</p>
C事業者	<p>他区の事例ですが、先着順ではなく、人数制限を設けないようなオンライン講座を行っています。その日に受講ができない場合でも、アーカイブ化して後で閲覧できるような対応も行っています。一方で、オンラインでないイベントについては、やはり先着順が多いイメージがあるので、どういう方法で平等な申し込みができるかは、課題とさせていただきます。</p>
E委員	<p>赤坂図書館の館長予定者について、2019年以前は図書館の勤務実績はないということでしょうか。</p>
C事業者	<p>弊社の外部受託という形で15年ほど図書館内の作業をしています。公立図書館としての勤務はこちらが初めてですが、大学の図書館や国会図書館窓口等でも勤務経験があります。</p>
E委員	<p>どのようなところに配慮しながら、他グループを含めた図書館全体としての連携や中央館とのしっかりとした連携を図っていったらいいのか、お答えください。</p>
C事業者	<p>私は他区の図書館で館長をしていますが、他館との連携というと、事業者が異なるとう難しいところもありますが、調べる学習コンクール表彰式の合同事業や、地区を跨</p>

A委員	<p>いだ歴史講座や人形劇の開催などは連携できると考えています。中央図書館との連携については、展示での連携などを考えてます。</p> <p>提出いただいた書類で再委託の業務について委託予定者が記載されていませんが、どのような形で見積もりをされたのか教えてください。</p> <p>また、先ほど弾力的な雇用という話がありましたが、経験の蓄積の点にういて、今受託しているところの事例で構わないので、どのくらいの方が継続して勤務されているのか、教えてください。</p>
C事業者	<p>ご指摘のとおり再委託の予定事業者名は未定としております。理由としては、基本的に港区の区内業者を選定していきたいと考えているからです。現在の図書館で港区の区内業者が担っている業務もあると思うので、可能であれば引き継いでいくことを考えています。今回それで話を聞いた見積もりと、港区ではありませんが関係のある業者の方に、それぞれの内容を説明して見積もってもらったところを書いています。</p> <p>2点目、年度が変わってどのぐらいの人が継続して勤務しているかですが、弊社の他施設の事例でいうと、15人～20人の職員の施設においては1人か2人が入れ替わるというようなイメージです。それも、家庭の事情等でやむを得ない理由によるものであり、雇用継続の希望がある方であれば、基本的に継続して雇用しており、安心感を持って弊社で働いていただいています。先ほど申し上げた5年経過時の無期転換等のも丁寧に説明するなど、本当に人は宝であることから丁寧に気をつけて対応しています。</p>
B委員	<p>読書バリアフリー法等の対象となるような、視覚障害者等、読書に障害のある方々に対する配慮について、他の自治体での実績や、具体的な取組等があれば教えてください。</p>
C事業者	<p>まず今回の提案の中に、視覚障害の方向けのサービスとして、「ユアアイズ」というものを載せています。iPhoneを本にかざすと、かなり早く読み上げるもので、弊社が管理運営している他の図書館で7～8月頃に採用させていただく予定です。弊社以外の図書館での実績も増えているようですので、効果を見極めた上で、港区でも導入したいと思い提案しました。普段の業務においては、対面朗読の登録をしている方に丁寧に対応することや、視覚障害の方が来られた際にスタッフが慣れていないと不安を与えてしまうので、障害者サービス等の研修は毎年必ず実施しています。</p>
D委員	<p>港区の図書館は今でも様々な活動をしており、引き継いでさらに発展していきたいものもあると思うが、どのようなものを引き継いでいきたいと考えていますか。</p>
C事業者	<p>みなと図書館においては、既に近隣の学校や科学館等との連携を図っているようなのでそれらの連携や、近隣公園での青空おはなし会についても確実に引き継いでいきたいと思えます。さらに連携を深めていくというところを、是非取り組んでいきたいと考えております。</p>
委員長	<p>それでは時間になりましたので、これでプレゼンテーション及び質疑応答は終了いたします。どうもありがとうございました。</p>
委員長	<p>(3) A事業者 準備ができましたら、プレゼンテーションをお願いします。 (A事業者がプレゼンテーションを実施)</p>
委員長	<p>ありがとうございます。それでは質疑応答に入ります。</p>

G委員	オンライン講座の実施や講座の動画配信のニーズは高いと考えますが、具体的な取組があれば教えてください。
A事業者	オンライン講座の実施については、やはりニーズがすごく高いです。港区内で管理運営を担っている図書館では、まだ潤沢にできてはいませんが、児童向けのサービスや講座等においてタブレットを活用して実施することを考えています。また、麻布図書館の2階のお話広場がコロナ禍以前のように使えるようになったため、今後はそちらを活用したいと思っています。
G委員	中身についてはいかがでしょうか。
A事業者	子供に向けて本の楽しさを伝えるような内容にしたいと考えています。また、調べ学習に関しては是非取り組んでいきたいです。電子図書館は港区で導入しており、そこに動画やオリジナルコンテンツを上げることができるため、作ったものを挙げて、広く使ってもらおうという取組につなげたいです。
D委員	研修について、接遇という一般的な話はありませんでしたが、図書館員のための研修という話がありませんでした。外部での研修を含めて、どのような研修に参加していくのか、例を挙げてお話しください。
A事業者	ステップアップ研修という形で、入社当初から最終的に図書館のマネジメントをする層まで含めて段階的に専門性を学ぶという講座を作っています。これは職階と給料等も連動した形で、上を目指させるよう行っており、当然レファレンスやさらにその先に繋がるような、調べ学習等も含めて専門性を構築できます。そういった段階研修と専門研修の両方を備えています。
D委員	専門機関で実施している研修への参加は予定していますか。
A事業者	例えば都立図書館や、日本図書館協会での研修などには参加しており、これからも参加していきたいと思っています。ビジネスライブラリー推進協議会の研修や、そういったものも必要に応じて受講し、力を強めていきたいです。認定司書が1名生まれましたが、日本図書館協会の定められた時間数の研修を受けないと認定されないものであり、この取組は進めていきたいと考えています。
B委員	先ほど、講座の資料等に関して電子図書館サービスに掲載する話もありましたが、港区図書館全体として提供されている電子書籍サービスや国立国会図書館で提供されているデジタルコレクション等のような電子情報資源に関して、地域館として実際の図書館サービスへの活用や、何かこういう場面で役に立つ等があれば教えてください。また、現在社会教育の現場において、生成A Iの話題が非常に多く議論されています。現場におけるA Iの活用についての考えや提案があれば教えてください。
A事業者	電子書籍サービスの活用については、講座等で紹介していくことにあわせて、港区でも進めているデジタルアーカイブには港区史や港区教育史など地域の貴重なコンテンツがたくさんあり、それを歴史講座や地域の講座で紹介しつつ、より深い学びにつなげていくという使い方はできると考えています。また、みなと図書館で計画している観光情報コーナーにタブレットを置き、実際にデジタルコンテンツを触ってもらうこともあわせて展示することで、コンテンツや電子書籍サービスを普及させ、より深い学びにつなげていきたいと考えています。
	生成A Iの活用については、利用者からの問い合わせに対して、レファレンスまでいかないにしても、まずは図書館サービスの基本的な部分を紹介するようなことをサービスとして導入したいと考えています。
C委員	お話し会等の人が集まる講座について、コロナ禍前後で変化があったと思います。

A事業者	<p>そうした状況変化に対して、何か考えがあれば伺いたいです。</p> <p>コロナ禍の前と比較して、集客手段としては、ホームページはもちろんツイッター等で積極的に周知しています。また、新しく港区の屋外掲示板に掲示し、実際に講座をやった時に掲示板を見て来たという方も何名かいて効果があると思っており、今後も続けていきたいと思っています。</p>
E委員	<p>館長予定者の選定理由の中で全員が現職の館長であって、港区内での図書館の経験も豊富ということですが、それぞれ館長としての個性があるかと思います。経験以外にどのような強みを評価してそれぞれ館長予定者に推薦したのか、教えてください。</p>
A事業者	<p>図書館現場で叩き上げた者や、企業の中でマネジメント経験を豊富に積んだ上で図書館という現場に来てる者もいます。図書館というのは、もちろん図書館に関する知識や本に関する知識も重要であり、館長になる前に研修は積みますが、やはりリーダーシップを持って、利用者の方と実際危機に瀕したときに接しなければいけません。そのリアリティーを持って担っていく上では、その人生経験をかなり重視して採用しています。その上で、スタッフとコミュニケーションを取っていける人格者、そういった部分も非常に重視しながら採用、研修、社内でのミーティングを重ねて選考しています。</p>
B委員	<p>昨今、国の読書バリアフリー法等で視覚障害者等の方に対する読書環境の整備にすることが義務づけられています。接遇や利用者への配慮といった点について、具体的な取組や事例があれば紹介してください。</p>
A事業者	<p>障害者サービス、読書支援サービスに関しては、港区のユニバーサルサービスの観点から、声の図書、録音図書、DAISYCDの貸し出し、対面朗読、大活字本の貸し出し、宅配サービスなどを実施しています。今年度から、区内の図書館で、手話通訳タブレットの端末やヘルプカードをカウンターに設置し対応ができるようにしており、ツールをどんどん増やして対応しています。SDGsの誰1人取り残さないというテーマも踏まえ、ハード面とソフト面の両面から図書館サービスを進めていきたいと考えています。</p>
F委員	<p>講座等の申し込みや方法の改善やオンラインでの講座の今後の取組についてお考えがあればご説明願います。</p>
A事業者	<p>ウェブによる申し込みについては提案資料には書いていませんが、他自治体での事例があるので、是非取り組みたいと考えています。</p>
A委員	<p>無期雇用に転換しているということで非常に素晴らしいことだと思いますが、人件費の比率が低く感じます。これから港区のために働く人たちの処遇について会社としてどのように考えているのか、教えてください。</p>
A事業者	<p>人件費に付随する消費税の部分は、租税公課の方に含めて提案しており、もしかしたらその部分に関係あるかもしれませんが、人件費については、業界の中では、決して低いとは思っていませんが、業界全体として処遇を上げていかなければいけないと私どもは信念を持って考えています。</p>
委員長	<p>それでは時間になりましたので、これでプレゼンテーション及び質疑応答は終了いたします。どうもありがとうございました。</p>
事務局	<p>(グループ2の採点表を回収・集計)</p> <p>グループ1 (三田図書館・高輪図書館・高輪図書館分室・港南図書館・台場図書館)</p> <p>(4) A事業者</p>

委員長	準備ができましたら、プレゼンテーションをお願いします。 (A事業者がプレゼンテーションを実施)
委員長	ありがとうございます。それでは質疑応答に入ります。
D委員	図書館はネットワークで動いているものなので、それぞれの図書館がどのように連携をしていくのか、こういった形でネットワークを組んでいくのか、特に三田図書館は中央館としてもう一つのグループの図書館も束ねる立場なので、どのように連絡調整を行おうとしているのか、ご説明願います。
A事業者	中央館としての連絡が来たものを各館に公平に伝えていきます。また、グループの垣根を超えた合同イベントのほか、資料の連絡や三田図書館として全体のまとめを行っており、業務ごとに各館、各担当者に連絡し、各館が同じレベルで情報を知り得るための連絡を常にとり、運営にあたっています。 また、全体で館長会を毎月実施しており、全館で課題や利用者の対応について共有しています。グループが2つになるということですが、全体で共有すべきことは必ず共有するというスタンスはこれからも変わりありません。現在も2つの事業者であり、港区を交えての会はありますが、全体で館長だけで集まるといった場はないので作っていきたいです。
D委員	館長会というのはどのくらいの単位でやっていますか。
A事業者	毎月行っているほか、会社としては、年に2・3回ほど地域別の館長会として23区内の館長がテーマ別に集まって情報共有をしています。各地域の営業マネージャーは2週間に1回集まっており、そこで得られた情報について各館に共有する取組を行っています。
B委員	令和4年度から港区の図書館は全て指定管理者制度が導入されました。例えば三田図書館であれば、田町・三田情報交換会という形で館長が中心となって人的なネットワークを構築しているようですが、そこで得られた人的ネットワークや研修等で得られた図書館運営のノウハウ等を何らかの形で区に還元する仕組みが必要と考えますが、お考えをご説明ください。
A事業者	区とも定例会を開催しており、それぞれの図書館で取り組んだネットワークや事業だけでなく人脈も含めた部分についても伝えており、特筆すべきことについては報告しています。もちろん図書館という場で情報交換会をする以上は、区に伝えて還元していくという姿勢は非常に重要だと考えており、継続していきたいです。
B委員	各種の研修にそれぞれの館の図書館員や館長が出席して、図書館のノウハウに関して研修を受けて知識や経験を積みますが、それを区に還元するような仕組みはありますか。
A事業者	都度その内容について区と時間を取って共有するということはできていませんが、非常に重要な考え方だと思います。どのような研修に参加したかは報告していますが、そこで得られたものを還元していくことは非常に重要だと思うので、取り組んでいきます。社内で広域的に取り組んでいる内容については、区にも共有しています。
B委員	電子書籍サービスについて改善点があれば教えてください。
A事業者	正直申し上げて、コンテンツは充実させていかなければならないと考えています。選べるコンテンツそのものが紙の本に比べて少なく、ここは改善を図っている部分でもあり、一番の課題です。また、紙とデジタルと分け隔てるのではなく、両方活用するという考え方が重要です。行事やイベントを実施するにしても、これを意識した形でデジタルへと利用がつながるよう紹介していくことが重要だと思います。オリジナ

C委員	<p>ルのコンテンツをデジタルでも積極的に発信していくといくことは、相互の利用につながるので、取り組んでいきたいです。</p> <p>三田図書館が中央館として、港区立図書館のホームページの開設や運営等を担っていくこととなりますが、提案資料では区側が求めている内容があまり反映されていないと感じました。実際にどういう点が港区図書館ホームページで課題となっていて、それをどう改善すべきと考えていますか。</p>
A事業者	<p>現在のホームページは区で運営していますが、トップページは三田図書館がイメージの中心となっており、当然ホームページは広域的にサービスを展開していく以上、各館にもスポットを当てて紹介しなければいけません。また、図書館のイベント検索だけではなく、デジタルアーカイブや電子図書館など、ホームページと親和性のあるコンテンツが非常に増えてきていることから、例えばホームページのトップに新しく入った本のデジタルな表紙が出てくるというような、新しく始めたサービスにダイレクトにつなげていくホームページを作っていかなければと考えています。</p>
E委員	<p>中央館として区内図書館の全体調整は非常に重要です。グループ2が別の事業者になる可能性もありますが、そうした場合に全体調整を担う三田図書館としてどのような点に配慮しながら調整を進めていきますか。</p>
A事業者	<p>今も2事業者ですが、必ず連絡が届くように電話をしたり、普通の連絡網だけではなくあえて追加で連絡して漏れることない形で伝えるように取り組んでいます。次回も2つの事業者で分かれたとしても同じように連携できるよう、メールや連絡網に関しては、私の方が直接連絡して漏れないよう連携していき、今の流れをそのまま全体につなげていきます。</p>
E委員	<p>連絡というのはもちろんですが、調整となると伝えるだけではなく、お互いに協議という場面も当然出てくると思います。事業者によってコンセプトも微妙に違うということもあるかと思いますが、そういった点はどう考えますか。</p>
A事業者	<p>当然事業者によってやり方が違うことがあるとは思いますが、話を聞きながら、こちらでできることと、相手の考えとを融合した形の話し合いを必ず持ちます。今後も、こちらから一方的に情報を流す、情報をもらうだけではなく、お互いに話し合うことで融合点を見つけ、連絡を取り合います。</p>
D委員	<p>比較的図書館の経験が浅い館長予定者の方がいらっしゃいますが、差し支えない範囲でこれまでの経験で図書館に活かせる点、図書館長になる上で図書館勤務の少ない部分をどのようにカバーしていくのか考えをお聞かせください。</p>
A事業者	<p>高輪図書館の館長予定者は、航空会社での管理職の経験があります。図書館も女性が多い職場であり、マネジメントに関してはしっかりと女性を束ねる力を発揮しています。その後、医療系の大学での教員経験や研究室での研究員としての経験もあり、今力を入れている健康医療情報の提供という、漏れのないタイムリーな情報を流せています。航空会社では接遇の面もしっかりと研修しており、毎月館長自ら全員に日本一感じの良い図書館を目指すべく、図書館員を教育しています。そのあたりが強みと考えています。</p> <p>港南図書館長予定者については、メーカーで技術職をしており、旧職で繋いだ人的ネットワーク等を活用して、図書館のイベントにおいて、図書館らしい知を備えられるような人たちを呼んでおり、地域の方々と連携するという点に関して強みを発揮しています。技術職としての経験を施設設備面にも活かしています。館長としての経験をこれから積み上げていく点に関しては、現場の課題を一緒になって考え、良い</p>

G委員	<p>アウトプットを出していきたいと思います。また、司書としての基礎知識や資格ももちろん勉強しています。高輪図書館長予定者は司書の学会にも所属しています。現場では何よりもカウンターやフロアに率先して出て、背中を見せて、まとめる力を持って司書として経験不足のところを補うように日々努めています。</p> <p>学校や幼稚園との連携について、より踏み込んだ提案や御社だからこそできる取組があれば教えてください。</p>
A事業者	<p>学校ではコロナ禍の3年間を経て、今までできなかったことをいかにやるかという中で、調べる学習コンクールには力を入れています。出張授業も拡充しており、調べる学習コンクールだけではなく、読書感想文の勉強会を学校に出張して行うなど、学校の図書室を使った形での勉強会に取り組んでいます。田町・三田情報交換会に学校関係の方も来てもらい、地域の関係者と一緒に話し合い、学校にそのソースを持って帰っていただくということも行っています。学校への見学会の企画も始めており、今まであまり行っていなかった地域連携としては新しい取組です。</p>
委員長	<p>それでは時間になりましたので、これでプレゼンテーション及び質疑応答は終了いたします。どうもありがとうございました。</p>
事務局	<p>(グループ1の採点表を回収・集計)</p>
事務局	<p>4 第2次審査採点及び事業候補者の選定について</p>
委員長	<p>(採点集計の結果について資料3-1、3-2に基づき説明する)</p> <p>グループ1の応募事業者の採点結果について、評価したポイントを各委員から順に講評をお願いします。</p>
B委員	<p>提案内容が港区の図書館にふさわしいかという視点から採点しました。現在の取組を含めたサービス内容に関して評価でき、実現性は高いと感じました。</p>
D委員	<p>現在行っている取組に対する改善や、アピールポイントの説明がなかったため、少し厳しい評価としました。ただ、現行の図書館サービスが確実に実行されるという点でA事業者が当該施設を管理運営することについては安心感があります。</p>
G委員	<p>これまでの管理運営実績や地域や学校との連携をはじめとしたサービス内容の点から安定的な運営が十分可能と考えます。学校との連携の発展を期待しています。</p> <p>提案された事業はどれも具体的かつ現実的なもので、実現性が高いと感じました。</p>
F委員	<p>地域団体との連携について、異業種と交流したうえで新たな事業提案につなげていくという積極的な姿勢が評価できます。また、中央館的機能について、グループ間の調整や情報伝達など、主体的に港区立図書館全体をまとめていく姿勢が感じられました。</p>
C委員	<p>募集要項に書かれていた、ホームページに関して区が求める事項が伝わっていないように感じました。今後、区側と調整が必要であると思います。</p>
E委員	<p>体制が盤石であり、管理運営体制はしっかりしているため、堅実な運営は間違いなくできると思います、評価できます。また、台場図書館については、区民センター図書室から図書館に移行し、地域住民からの期待もある中、台場地域の特徴を踏まえた提案がされており、地域の魅力向上や情報発信に期待ができると思いました。</p>
A委員	<p>当該施設の管理運営を任せる能力は十分あると思います。もっと積極的な取組があるとより良かったと思います。</p>
委員長	<p>それでは、グループ1の採点を確定してよろしいですか。</p>

委員長	<p>(全員了承)</p> <p>グループ1については、A事業者は総合点1,548点で、第一次審査及び第二次審査ともに選考の最低基準である審査合計点の60%を超えていることから、グループ1(三田図書館・高輪図書館・高輪図書館分室・港南図書館・台場図書館)については、A事業者を選考委員会での候補者として決定します。</p> <p>(全員了承)</p>
委員長	<p>続いて、グループ2の応募事業者の採点結果について、評価したポイントを各委員から順に講評願います。</p>
B委員	<p>電子書籍や生成AIについて質問したのは、最近の業界の動きに目配りしている業者かどうか聞きたかったからです。できれば電子書籍や生成AIを用いて読書バリアフリー法の本質、読書支援に活用できるという一言が欲しかったのですが、どの事業者からも言及がありませんでした。その中でもC事業者に関しては、なんとか答えようとするなど、本業務を担いたいという姿勢を強く感じました。それ以外の部分は、どの事業者も大きな差はなく、施設の管理運営を担う能力は十分に有していると考えます。</p>
D委員	<p>C事業者は、図書館の知識が少し不足している印象を持ちました。B事業者は、書類では低い評価としましたが、プレゼンテーションを通じて評価が上がりました。A事業者は実績も十分であり安定した管理運営が可能ではあると考えます。</p>
G委員	<p>本業務に一番意欲をもっていたのはC事業者だと感じました。グループで事業者が違っても、中央館である三田図書館の事業者と十分連携できると感じました。事前に施設や地域をリサーチしており、そのような姿勢のもと、意外性のある地域の異業種とのコラボ事業「図書館×(かける)○○プロジェクト」や自社の得意分野を生かした資料のデジタル化や書架構成の見直し、文庫本の装丁ワークショップやアルバム作りイベントの実施などの新しい事業提案があり、今後もより良い提案を出してくれることが期待できると考え、評価しました。</p>
F委員	<p>区民が安心してその施設を利用できるということが一番だとすれば、どの事業者も任せられると思います。その中で、C事業者が結果的には一番高い点数となりました。情報発信や居心地の良い空間づくりなど積極的な提案が見られ、最も本業務に意欲を持っていると感じました。地域や各図書館の特性やそれらを融合したサービスの展開に向けて、現在の図書館のサービスの改善点をしっかりとリサーチしていました。誠実さ、一生懸命さ、指定管理者公募というものを理解して臨んでくれていたと思います。</p>
C委員	<p>3事業者ともあまり差が付かない点数となりました。書類を見て気になった部分を中心に質問しましたが、B事業者については、パソコンの利用エリアの増設について、具体的な回答をいただき、しっかりと検討されており、他の内容も信頼できると思いました。C事業者については、正規職員の比率は低いですが、将来的な無期雇用への転換など、安定的な施設運営に向けた人員配置の説明がなされていました。A事業者については他の委員と比べると点数が高いですが、これまでの実績からも信頼して任せられると考えます。</p>
E委員	<p>A事業者はグループ1と同じで、安定的な運営は期待できると評価しました。B事業者については、プレゼンテーションの受け答えについて、全体的に一般的な回答に終始しているため、すべての項目で平均点を付けざるを得ませんでした。C事業者は、</p>

	<p>地域特性に応じてどういう運営をしていくのかという肝の部分について、麻布図書館であれば外国人人口が多いため外国人に向けたサービスに力を入れていく、赤坂図書館についてはビジネスについての環境が特色としてあるためビジネス書を中心に力を入れていくなど、地域特性に応じて館の運営をどうしていくのか明確に示していました。地域に根差した図書館を実現するために、地域特性に応じた館を運営することについて、具体的に提案されていた点は評価できます。再委託については、積極的に区内事業者を取りたいという姿勢は評価できますが現状管理運営の再委託先が未定であることからその点は調整が必要だと思います。</p>
A委員	<p>A事業者は当該施設の管理運営を任せる能力は十分あると思います。もっと積極的な取組があるとより良かったと思います。B事業者は都内でも運営実績がありますが、提案書の内容が一般的であり、それを埋めるようなプレゼンテーションでもありませんでした。C事業者はA事業者に比べるとかなり小さな会社ではありますが、提案書類は現在の港区及び港区立図書館についてよく研究していることが伺え、施設ごとに特色があり具体的で非常に良くできていたと思います。プレゼンテーションでは明確に分かりやすく受け答えしており、施設を適切に運営していく上での誠実さが感じられました。</p>
F委員	<p>指定管理者が図書館の運営をすれども、図書館の施設所管である図書文化財課がリーダーシップをとり指導力を発揮していくべきであり、区の関与のもと、今回、興味深い提案が出されたC事業者の提案を生かしていきたいと感じました。</p>
委員長	<p>それでは、グループ2の採点を確定してよろしいですか。 (全員了承)</p>
委員長	<p>グループ2（みなと図書館・麻布図書館・赤坂図書館）については、A事業者は総合点で1,571点。B事業者が総合点で1,455点。C事業者が総合点で1,581点となることから、選考の結果、C事業者を選考委員会での候補者として決定します。 (全員了承)</p>
事務局	<p>5 その他 (資料4について説明する。)</p>
委員長	<p>6 閉会 本日の委員会は、以上を持って閉会とします。</p>

※委員長における質疑や講評等に関する発言について、「委員」として表記しています。